

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202055		
法人名	有限会社 ティージー・サポート		
事業所名	グループホーム 伏古公園 ユニット1		
所在地	札幌市東区伏古1条2丁目3番23号		
自己評価作成日	令和 5年 7月20日	評価結果市町村受理日	令和5年9月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170202055-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と日々の関わりを大切にしている。職員の意識を高める事で介護の質を上げ、入居者様の生活をより良いものに出来るよう努めている。利用者様の重度化に伴い、御家族様にも協力をして頂き、安心・安全な生活を送れるように支援しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年8月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設15年目を迎える2階建て2ユニットの事業所である。閑静な住宅地に位置し、向かい側には広大で自然豊かな伏古公園があり、四季折々の景色を間近で味わうことができる環境にある。感染症対策で地域交流や外出の制限下であるが、状況を鑑みつつ再開する事としている。利用者の重度化が進む中で、人権を尊重した安心安全な環境をどのように構成し支援するかを課題分析やロールプレイング研修を通じより良い方法を導き出しており、職員の介護力や支援の質の向上に余念なく取り組んでいる。また、利用者1人ひとりの状態像や変化等を介護支援専門員につなげる仕組みもあり、現状に即した介護計画が策定され、日々の介護日誌を1か月単位で家族に送付しているのも特徴である。全介助の利用者の安楽な入浴に向けストレッチャー式車椅子やベッド上で過ごす時間が長くなった利用者へは身体への負担軽減や褥瘡予防につながる高反発マットレスの提供を行うなど、利用者に合った福祉用具の導入もなされている。利用者の好みに応じたレクリエーションや家事作業の習慣化により、持っている力が引き出され、満足感やリフレッシュ、利用者同士の良好な関係性へと発展している。職員は人員不足により利用者と寄り添う時間が減ってきている事を危惧しつつ、職員同士助け合いながらモチベーションを維持し、家族からの温かい言葉や応援も力に、真摯な姿勢で利用者支援に臨んでいる。大切にしている運営理念が体现されている事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りで復唱し、理念を共有し実践、対応している。	運営理念はパンフレットに明示し、利用開始時に家族等に説明している。スタッフルームや職員ネームプレートに記し、また、申し送り時に唱和している。支援検討時や支援の際に理念を踏まえた対応を心がけており、事業所、職員の拠り所として意識化が図られている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で、町内イベントも中止となり地域との交流は、出来ていない。	利用者が直接地域に出向く交流は見合わせているが、向かいの公園で実施された町内合同サマーフェスティバルで職員が利用者のおやつ購入をしたり、町内会からは、プランター作りの声かけや役員交代の際に挨拶で来所もあるなど、良好な関係性が窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御利用者様の状況はホーム便りを通じて発信し理解を深めていただけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により外部の方を交えての会議は開催していない。	運営推進会議は書面で開催し、委員と家族へ議事録を送付している。毎回、主題をもとに、事業所の様子や取り組みについて、管理者、計画作成担当者、介護支援専門員で協議し発信している。10月から参集にて開催する予定である。	運営推進会議で報告が求められる利用情報や施設全体の状況報告を詳細に行う事としているので、今後の議事録の充足も含め、その取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ連絡を取り相談や報告をし協力関係を築くよう取り組んでいる。	市や区の担当者とは、介護保険制度上の質問や相談等で意見を仰いだり、近況の聞き取りを受けるなど、適正な運営の維持に向け協力関係を築いている。保健所とも感染症に係る健康管理に向け協同し対応に努めた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の内部研修や施設内での、御利用者様の状況に応じ都度確認しながら正しく理解するよう努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、今年度より身体拘束廃止委員会を2か月ごとに開催している。委員会では利用者の人権を意識した支援方法の検討がなされている。これらに係る内部研修では帰宅願望や介護拒否のある事例のロールプレイングを実施し、関わり方の検証や身体拘束に係る資料の確認、読み合わせを行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の内部研修で具体例をあげて学ぶ機会を設けており全職員で防止に努めている。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの影響により外部研修参加は行っていないが、必要時に活用できるよう内部研修で制度について学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時には御本人や御家族の不安や疑問を伺いながら十分な説明を行い理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に情報共有に努めている。ご家族からのご意見や、お問い合わせに関しても都度、状況説明をしたり、話し合う機会を設けている。	利用者の「お墓参りに行きたい」の要望では家族に協力を得たり、叶えることが難しい希望には、職員がそれに纏わる本人の思い出に寄り添い安心してもらうなどしている。家族の意向や希望を介護計画に盛り込んだり、意見を受けて今後の的確な対応を職員で意識統一するなど運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議等で日々のケアについて意見交換をし現場の声を聞く機会を作り反映させている。	職員会議は、代表者も訪れての参集開催や書面にて行い、情報共有や意見聴取に努めている。利用者に即した福祉用具の導入や法人関係者の巡回も得られて適宜、設備面の改善に至っており、職員意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の動向を把握し代表、管理者で話し合い、より良い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在コロナの影響にて外部研修の参加は中止している。施設内での事例や問題点を議題にし内部研修を行ないトレーニングの機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響により行っていないが、必要に応じてFAXやメールなどを利用し連携をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に、御本人が感じている不安や要望、御家族からの情報を共有し、ご本人が安心してサービスを受けられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が思っている不安や、要望を伺いケアプランを作成している。ケアプラン更新時には、現状報告をし、その都度、不安や要望が無いかを伺い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族、御本人からの情報をもとに、どう支援していくか考え、提案しサービス内容を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の得意とする事、好きみななどに配慮しながら状況に応じて、他者ともコミュニケーションを取り安心して暮らせるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナにより直接会う機会は減ったが、電話で話をしたり、来所時に行事の写真をお渡し近況を報告をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響により面会制限継続中の為、予約制での面会や、電話での対応を行なっている。居室で短時間だが来所者と過ごせるよう努めている。	手紙や電話の取り次ぎを支援し、面会は居室で対応している。家族と通院受診した後に外食や自宅で短時間過ごす利用者もあり、大切な家族との関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が交流できるようにレクや行事を行い、きっかけ作りになるようにしており、職員が声掛けし間に入ったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の交流は殆ど無いが、稀に電話や葉書、来所などで報告を頂いており、こちらからも連絡を入れ様子を伺っている。相談をされた際は、可能な限り支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や御家族様来設時に情報を得たりご本人の言動や行動から判断し検討している。	意思の疎通が可能な場合でも思いを控える利用者もいるので、関わり方を工夫して本意を確認できるようにしたり、言葉の表出が難しい利用者へは、意向について代弁し、支援の中で様子を観察して本人本位を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から情報収集をし、入居時入居後も御家族から、話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録をもとに変化があればチームで共有し現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度モニタリングに取り組み、必要なサービスの追加や相応しくないサービスの削除をしている。ご本人の希望を聞く事は難しいが生活の中から予測したり御家族の意見を反映している介護計画書を作成している。	利用者の状態像の立論に向けた情報や事実を職員が毎月、日にちを決めて記入する仕組みがあり、これらを介護支援専門員が集約してモニタリングしている。家族や本人の生活への意向等を反映させ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等は、介護記録に記入している。状態の変化や気づいた事、変化があればスタッフ間で情報交換、介護の方法を検討したりチームアプローチとして実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームであるためサービスの選択肢が少なく事業所の多機能化に難しさはあるが、御家族からの相談やサービスが必要な場面では受けられるサービスの提案をし選択をしていただけるよう対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で外部からのボランティア来所や町内会の行事など、外出が出来ていないが今後は少しずつ交流を再開したいと考えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に、ひがし在宅クリニックに相談しまかなる。医療に関しては対応してもらっているが受診が必要な場合は、御家族に必要な性の理解を得て受診をお願いしている。入院時等も連携を取りスムーズな対応をしている。	2週に1度の内科と必要時の歯科の往診体制を整え、毎週月曜日に医療連携の看護師が訪問し健康管理支援を行っている。協力医療機関以外の受診は家族対応である。協力医療機関系列クリニックの検査により疾病の発見、治療を受けている利用者がいる。	

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護を受け定期的な健康管理を行っている。浣腸など処置が必要な時や、日々の状態の変化、受診結果など情報共有や相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護記録に基づき介護添書を作成しADL、認知度など情報提供をしている。コロナで、お見舞いが出来ない為、御家族様や医療機関と電話で状況を伺い、早期に退院できるよう努めている。退院時には、看護添書、リハビリ添書等を提供していただいている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、看護師に相談し、指示を仰ぎ、ご家族様とも話し合いながら決定するようにしている。	重度化した場合における対応指針を利用契約時に説明し同意を得ている。看取りは行っておらず医師の判断に基づき、医療機関への移行支援となっている。急変時にスムーズな連絡が難しい1家族と、万が一の対応について書面を交わしている実際もあり、緊急時における意思確認書について検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や外部研修に参加し理解を深めるようにしているが、コロナ渦にて外部研修の参加は出来ていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回昼夜に分けての避難訓練を行っている。消防署員立合いでの訓練はコロナで行われていない為マニュアル等の確認、紙面で行っている。	令和3年3月に夜間想定地震訓練、令和4年10月に夜間想定火災避難訓練を実施し、地域協力者の参加は見送っている。災害備蓄品を確保し、自然災害発生時における業務継続計画を法人で策定中である。	消防署の立ち会いにより、指導を得ての避難訓練と、水害を想定した訓練を実施して行く考えを示している。市介護保険課が掲載している指導資料(非常災害対策の基準事項)も参照しつつ、対策の強化に期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重とプライバシー確保の指導を受け対応している。	接遇事例検討では、実際に職員間でロールプレイング研修を行い、より良い対応の習得に努め、入社時にプライバシー保護について指導を受け確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく御本人の希望を表現できるよう職員同士で申し送り等で話し合いをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にし、出来るだけ希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や室温に応じて、組み合わせを行い、行事などでは、おしゃれが出来るよう支援している。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	馴染みの食器を使う事で親しみが生まれ、おいしく食事が出来るよう配慮している。下ごしらえや片づけを一緒にしている。イベントでホットプレートを使用し目の前で調理し目や鼻で楽しんで頂けるようにしている。	肉・魚メニューを隔日に設定し、栄養バランスや麺・パン食などバラエティに富んだ献立で提供している。誕生日は本人の希望も取り入れ、生ちらし寿司や洋風プレートなどにケーキを添えて祝っている。今夏のおやつはかき氷が好評であった。利用者は食事作業に携わり、力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介助が必要な方へは、御本人の飲みたい時間に合わせ提供をしたり、嚥下状態が悪い方には、トロミを使用している。一度に摂取が出来ない場合には、数回に分けて摂取したり時間をおき再度提供するなどし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、スポンジ、口腔ジェルなどを使用している。歯科の訪問診療により指導を受けたり、義歯の調整をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し定期的に声掛けをしたり誘導を行っており、汚染の軽減に努めている。	個々の排泄状況を記録し、量や性状の排便チェックや排便が滞っている場合は看護師に腸蠕動音を確認してもらい適切な処置を行っている。定期的なトイレ誘導や行きたいときにトイレに向かえるよう介助し、尿意のある利用者も間隔が空き過ぎている時は声かけして失禁を防いでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医による下剤の処方、腹部マッサージや乳製品の摂取などで便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を数種類用意し季節や、御本人の好みに合わせて使用している。入浴は基本週2回程度、排便状況により随時入浴やシャワー浴での対応もしている。	ユニットごと入浴の設定に違いはあるが、週に2回の入浴であり、利用者がスムーズに浴室に向かえるよう個々に声かけを工夫している。拘縮が強い利用者はストレッチャー式車椅子で入浴に対応するなど、本人の不安感や安全面に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠の様子や血圧の状態、体調に合わせて休息の時間を設け臥床している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情の把握により理解している。介助にて確実に服用出来るよう支援している。精神薬、便秘薬などは、医師、薬剤師と相談し状態を報告し調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物たたみ等家事に参加してもらっている。歌う機会を設け楽しんだり、誕生日には、御本人の楽しめるレクリエーションを実施している。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニット1)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により外出は、出来ていない。受診で外出する程度。	感染症対策で事業所周辺や公園での散歩、行事的な外出も自粛している。家族が同行する通院受診後に、家族と外出する利用者もいる。	暑さが過ぎた頃には、向かいの伏古公園のベンチで過ごしたり、周辺に出かける機会を持ちたいとの意向があるので、その取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理をしている。必要に応じて職員管理のもと使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方は、電話を取り次ぎ、話しをして頂いている。不可能な方は、時々職員が電話し近況報告をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は、季節感を感じていただけるよう装飾品を飾り工夫をしている。室温、湿度管理を行い居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	共用空間は清潔感があり、季節感あるモチーフの飾り付けがなされ、鉢植えや時々生花が飾られる事もある。毎日3食分の献立をボードに記し、利用者に知らせている。エアコンを設備し空調を管理している。利用者が車椅子や歩行器使用時に他者に気兼ねなく安心して移動できるようテーブルや椅子の配置を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に一人で過ごせる所はないが自席では無く、ソファで過ごして頂いたりしている。御利用者様の状況により席替えをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人の使い慣れた家具などを持参していただいている。室内は御本人が使いやすい危険の無いように設置している。	居室入り口には自室と分かる表札や写真を掲示し、介護用ベッドや昇降式ポール、照明、レースカーテンが設備されている。利用者の使い慣れた調度品や大切な品々が持ち込まれている。動線やベッドの高さに配慮するなど、本人が過ごしやすい環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体的な事や認知症のレベルを考慮し家具の配置や備品の配置に配慮し、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202055		
法人名	有限会社 ティージー・サポート		
事業所名	グループホーム 伏古公園 ユニット2		
所在地	札幌市東区伏古1条2丁目3番23号		
自己評価作成日	令和 5年 7月20日	評価結果市町村受理日	令和5年9月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170202055-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と日々の関わりを大切にしている。職員の意識を高める事で介護の質を上げ、入居者様の生活をより良いものに出来るよう努めている。利用者様の重度化に伴い、御家族様にも協力をして頂き、安心・安全な生活を送れるように支援しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年8月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し毎日の申し送り時に復唱確認し共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により町内のイベントも中止の為、地域との交流は、出来ておらず、散歩など外出も控えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて地域に発信・交流を行っていたがコロナで外部の方を交えた会議は控えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナにより外部の方を交えての開催は中止している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ連絡を取るようにし協力関係を築けるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修により事例検討など更に理解を深め、拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や内部研修で理解を深めている。日々のケアにおいて言葉使い等にも十分配慮し防止に努めている。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ利用者の状態に応じて相談を受けるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に情報共有に努めている。ご家族からのご意見や、お問い合わせに関しても都度、状況説明をしたり、話し合う機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアー会議等で日々のケアについて意見交換をし現場の声を聞く機会を作り反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給消化等職員が納得できるよう整備している。職員の日々の動向を把握し代表、管理者で話し合い、より良い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在コロナの影響にて外部研修の参加は中止している。施設内での事例や問題点を議題にし内部研修を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響により行っていないが必要に応じて連携をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や手続きの段階で不安や要望を伺いケアプランに反映し入居後も安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	近況を報告し情報共有に努めている。要望や不安等があれば聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人の状況や御家族や医療機関等からの情報により必要な支援を見極め必要に応じ他サービスの利用を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員間で情報を共有し日々の変化を見逃さないように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人、御家族に寄り添い、より良い関係を築き支えられるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は来所制限中の為手紙や電話等の対応で支援している。関係が途切れないよう状況に応じて自室で短時間の面会を再開している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士、関りを持てるよう支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了、退去した方(家族)との関わりは殆ど無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の生活状況を把握し可能な限り個々の希望に添えるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	keyパーソン等から情報収集により、馴染みの暮らしが継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックやご本人の表情から把握するよう努めている。御家族の要望があれば反映できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でモニタリングを定期的に行い介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間、日々の変化や気づき、御本人が言葉にした事を記録に残している。問題や特変時には、申し送りや連絡ノートを利用し情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	チーム間でどのようにしたら良いか話し合い、他サービス等の活用も含め、より良い対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で外部からのボランティアや町内会の行事等、外出が出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時は24時間体制にて対応。往診、訪問看護、歯科往診にて対応をしている。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を活用し、相談や処置等のアドバイスを受け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者、ケアマネ、リーダーが入院先への意思などと情報交換をしている。御家族からの聞き取りも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し同意を頂いている。施設の方針により対応が厳しい事もあるが主治医の指示に従い可能な限りの支援に取り組んでいる。御家族様とも話し合いながら決定するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や外部研修に参加し理解を深めるようにしているが、コロナにて外部研修の参加は出来ない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立合いでのホーム全体での訓練はコロナで行われていない。防災時マニュアルの確認、避難訓練、設備、備蓄品の確認や補充をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修にて接遇を学んでいる。一人ひとりの人格尊重とプライバシーを尊重し言葉掛けを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく御本人の希望や意見を聞き可能な限り本人の意思にそえるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活ではあるが個々のペースに合わせられるよう、出来るだけ希望に添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には御本人の希望する服を選んで頂いたり、職員が希望を聞き支援している。訪理容を活用しカット、染めなどを行っている。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には、準備、片付け等を手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーコントロールにて体重の増減を管理している。食事、水分量、形態を個々に合わせ提供し記録に残す事で職員間で情報共有をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科による訪問診療にて指導していただき毎食後声掛けをし場合により介助、仕上げ等を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し定期的に声掛けをしたり誘導を行っており、汚染の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医による下剤の処方、腹部マッサージや乳製品の摂取などで便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に配慮し、無理なく入浴できるように支援している。苦手な方にはシャワー浴で対応し会話も楽しんでいただけるよう工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を理解し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬情を確認し理解を深めている。誤薬を防ぐよう見守り、介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意、不得意を理解し楽しんでいただけるように毎日レクリエーション等で支援している。		

グループホーム 伏古公園

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ユニット2)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで外出は出来ていない。来所制限中の為ご家族とは、ガラス越しでの面会から居室にて短時間の面会を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理し必要に応じて個別で買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば御家族様等と連絡を取れるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごと温度や湿度調整をしたりし季節に応じた装飾品を貼り変える等で季節感を感じて頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時折席替えをしたり、お互いに話しの合う利用者様同士を近くにするなど、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物を持参していただいたり、危険の少ないように家具を設置し過ごしやすい環境を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に応じ出来る事は見守りながら行っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 伏古公園

作成日：令和 5年 9月 15日

市町村受理日：令和 5年 9月 21日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	コロナ禍により書面会議での開催の為、委員や家族等の参加が無い。	10月より対面で会議を実施する。ご家族様にお知らせをし参加に繋げる。	10月より参集での会議を開催する。参加できなかった方からも意見を頂く。	半年
2	35	コロナ禍により消防署の立ち会いによる訓練や地域協力者の参加が無い。水害を想定した訓練を行っていない。	消防署立ち会いによる訓練を行う。地域協力者参加の避難訓練を実施する。	地域協力者参加は運営推進会議で呼びかけを行う。災害想定訓練は9月12月に予定。	1年
3	49	暑さが過ぎた頃には、向かいの伏古公園で過ごしたり、周辺に出かける機会を持ちたいとの意向があるので、その取り組みに期待したい。	外気浴や外出により気分転換を図る。	外気浴や近隣の散歩等、無理のない範囲で再開する。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。